

市長の深い話

谷が



深谷市長 小島 進

二人の賢人

先日、お二人のかたと対談させていただきました。お一人は映画監督の大林宣彦監督。もうお一人はノーベル化学賞を受賞された下村脩先生です。

大林監督は、深谷シネマの名譽館長をされていることから、これまで何度かお話をする機会があったのですが、今回のようにじっくりお話をすることができたのは初めてのことでした。

監督は、これまでに撮られた多くの映画にまつわるエピソードや印象に残っている街、深谷シネマなど多岐にわたり、たいへん興味深い話をしてくださりました。

下村先生は、緑色蛍光たんぱく質の発見と開発の功績により、2008年にノーベル化学賞を受賞されました。現在はアメリカに住りますが、深谷とは深い縁があり、このたび、その縁で深谷にお越しになりました。

先生は、長崎の原爆を体験されており、そのことが人生に大きな影響を与えたそうです。後々の研究とは全く異なる、そして、先生自身まったく興味がなかった薬学の道に進むこととなったのです。

しかしながら、紆余曲折を経て、ノーベル賞受賞という快挙を成し遂げられました。

お二人との対談のなかで、特に強く感じたことは、『人との出会い』と『豊かな心』の大切さです。このことは、人として成長するための重要な要素であると痛感しました。まさに賢人のお二人でした。

なお、この対談の詳細については、広報ふかやの1月号に掲載する予定です。どうぞ、楽しみにしていてください。

とぴっくす TOPICS



ゆるキャラグランプリ2013 ふっかちゃんへの投票ありがとうございました

ゆるキャラグランプリ2013では、市イメージキャラクター「ふっかちゃん」にたくさんのお票をいただき、誠にありがとうございました。今回、市民、企業の皆さんと一緒にふっかちゃんを応援することで、地域社会が活性化し深谷市がより元気な街になるよう取り組みました。

ふっかちゃんは、これからも今まで以上に、深谷の旬な話題や魅力を広くPRできるよう頑張りますので、引き続き応援をお願いします。なお、ふっかちゃんの最終

順位は専用ホームページ「ゆるキャラGP」で検索して確認することができます。

全国からふっかちゃんに届いたファンレターの一部を紹介します

◆ 彦根のゆるキャラまつりで初めて見て虜になりました♡ねぎサミットでの『深谷ねぎ』おいしかったです。今度、愛知に遊びに来てください。(愛知県在住)

◆ ふっかちゃんラブ！来年上京したいから(引越先として)深谷市も検討するからね！(福岡県在住)

◆ 去年、ふっかちゃんを初めて見て大好きになったよ！グッズを買いに深谷市に遊びに行くよ！(神奈川県在住)

◆ ふっかちゃんを知って、深谷市を知って、行ってみたい、好きになって、また行ってみたい、また好きになって、これからも行くつもりです。(愛知県在住)

※本文は、ファンレターの一部を抜粋し掲載しています。

問い合わせ 企画課 (☎574-8006)

ありがとうの手紙



優秀賞
小学校高学年の部
江田万佑莉さんへ



花園小学校6年(現東農大三中1年) 江田万佑莉さん

私は、総合の時間あなたの事を調べました。あなたの生き方、思い、論語を調べました。あなたの志や生き方を知って、私は、人に優しく手を差し伸べてあげられるあなたのようにになりたいです。人に優しくすると、相手も自分もすがすがしい気持ちで生活できるという事も学びました。「過ちを犯して過ちを直さない事が過ちだ」という論語の言葉も心に残りました。

人生の教科書としてあなたを手本にしたいです。大切なことをたくさん教えてくれてありがとう。

みんなの声 BOX

暮らしに役立つ情報など、市民向けの出前講座や研修会を行っていますか？

市職員が講師となり、『まごころ出張講座』を行っています。

『まごころ出張講座』は、市内のグループや団体(10人以上)を対象に市職員が出向き、さまざまな情報を提供するものです。市の財政や福祉サービス、防災、防犯など、19の講座からお選びいただけます。

講座の内容や申し込みの詳細は、市ホームページをご覧ください。

問い合わせ 秘書課 (☎574-6631)

シリーズ 考えよう 公共施設のこと ③

現在、市が保有する施設を耐用年数経過後に、同じ規模で更新(改修、建て替え)したと仮定した場合、今後40年間で必要となる費用の総額は約1,450億円、年平均で36.4億円となります。過去3年間(2010~12年度)で公共施設の新設や更新に掛けた費用は、年平均約28.5億円です。現状の約1.3倍の費用が掛かる試算となります。

今後の財政見通しにおいて、生産年齢人口の減少による税収減や国からの交付金の削減などによる歳入の減少に加え、増加の一途をたどる扶助費などの削減が困難な状況では、従来通り、今ある施設を維持しながら、今後発生する施設更新の大きな波に耐えることは、大変難しいといえます。

